



33

海と神楽と大須っ子

大須小学校

大須小学校は雄勝半島の東側に位置し、宮城県で一番東にある全校児童22人の小さな学校です。大須小は、平成17年に旧大須小と桑浜小が統合し開校しました。桑浜小のスレート屋根、船のデッキ、そして大須の灯台をイメージし、またバリアフリーを取り入れた近代的な校舎です。大須小学校の自慢は数々ありますが、一番はその豊かな自然です。学校のフェンス越しには大須灯台や海が見えます。フェンス越しに坂道を下っていくと、林の中から熊沢地区の岩場が広がります。地域で「学校浜」と呼ばれている岩場には、ウニ、カニ、タコなど海の生き物がたくさん生息しています。理科や生活の時間に、子ども達は歓声を上げながら、貴重な海の恵みを五感を通して体験することができます。学習したいときにすぐへ行ける浜、日本広しと言えども「学校浜」のある学校はそれほどないと思います。大須小学校自慢の一つです。

海と言えば、もう一つ。夏休みにはPTA行事として地域の方々の協力をいただきながら、ウニ採りの体験を



▲ ウニ採り挑戦



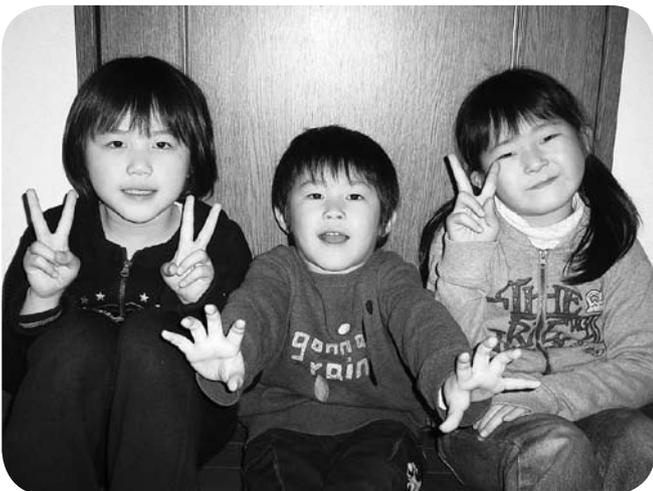
▲ 大須八幡神社 春の祭典で「四天」を踊る

することが出来ます。「かぎ」と「水めがね」を使った本格的なウニ採りです。また、地域の伝統を受け継ごうと雄勝法印神楽の伝承活動があります。雄勝法印神楽は平成8年に国の重要無形民俗文化財に指定されています。放課後の時間を活用して、3年生以上の子ども達が、大須地区神楽保存会の師範の方々の協力を得て、「初矢」と「四天」の神楽に取り組んでいます。毎年、大須八幡神社と熊沢五十鈴神社の春の祭典には、子ども神楽を披露します。

これからも、自然の恵みと地域の素材を活用しながら大須の青く輝く海のように、きらきうと感性豊かな大須っ子を指してがんばっていきます。

にぎやか家族 ④

河南地区前谷地



写真左から、茉奈ちゃん、祐也くん、奈々ちゃん

《将来の夢》

山 岸 奈 々 ちゃん (9歳) ケーキ屋さん
 茉 奈 ちゃん (7歳) 保育所の先生
 祐 也 くん (5歳) お父さん

〈両親から〉

3人仲良く、いつまでも元気でいてください。

今月の表紙から

おにぎり、のりまき、のり弁当など、ノリは巻いてよし、包んでよし、ちぎってよし、日本食にはなくてはならない食材です。また、「海の野菜」と言われるように、ヒタミン、ミネラル、食物繊維；などさまざまな栄養素をたっぷり含む健康食材で、しかもローカロリーなので、ダイエットにも強い味方です！

宮城県は、国内有数のノリの産地で、石巻湾と松島湾の外洋部がノリ養殖の中心となり、石巻は日本のノリ養殖の北限地です。

今回は、2月上旬に、近藤さんのノリ棚での摘み採り作業取材しました。摘み採りは夜明け前にノリ棚に向かい、ノリ網の幅にあわせて回転刃の上に網を移動させて摘み採ります。作業は、11月から始まり、4月まで続きます。

近藤さんは「ノリは生き物なので、作業はその日その日が違い、一年一年が違います。また、品質も海が荒れた日が続くと、荒いものが出来上がるなど海の状態によっても違ってきます。だからこそ、良い品質のノリが出来たときはとてもうれしいですね。父が言っていた「ノリ(養殖)には先生がいない。一年一年が違う」という言葉がこのノリ養殖の難しさそのものです。海での作業はいつも危険が伴うので、安全第一を作業しています」と話していました。



近藤正昭さん (塩竈町)



サークル仲間

なかま 39

楽しい運動と

笑顔がいっぱい！

リトミック・キッズ

リトミック・キッズは、未就園児（1歳〜4歳）を対象とした子育て支援サークルで、活動を始めて今年で6年目を迎えます。サポートするのは、代表の高城和佳子さんを含め3人で、年齢ごとに6つのクラスがあり、月2回、石巻中央公民館の和室を会場に活動しています。

サークル名にある「リトミック」とはフランス語で、リズムを身体の運動によって把握させる音楽教育法のことです。歌や音楽に合わせてながら、楽しい運動

や読み聞かせを行っています。

自身の家庭が転勤族であった高城さんは、知らない土地で子育てに悩んだ経験があり、同様の悩みを持つ方々の一助になればと思い活動を始めたそうです。



3年前には、桃生地区に「弟分」であるリトミック・ピーチ（桃生地区にちなんで命名したそうです）も誕生し、より幅広く活動できる環境となり、現在は110組の親子が会員として登録しています。今回取材したのは3、4歳児のクラスで、「だるまさんが転んだ」をヒントにした運動や新聞紙を使ったユニークな運動などで、笑い声が絶えずとても楽しかったです。

4月からは、子ども達の顔かれも変わり、新しい出会いの季節となります。楽しい歌や運動・読み聞かせで、新メンバー達もすぐ打ち解けることでしょう。

※会では、4月からの会員を募集中です。
（図23・20034（代表 高城 まで）

長寿のひけつ



32

趣味を極める

武山 セツ子さん（桃生地区寺崎） 85歳

今回は、俳句を詠むことが趣味の武山セツ子さんをご紹介します。



武山さんは、大正13（1924）年に8人兄弟の3番目として生まれ、農業を営んでいたため、小さい時から田んぼや畑の仕事を手伝っていました。

23歳の時、一つ年上の由男さんと結婚し3人の子どもにも恵まれました。

その後、60歳近くまで農業をしていましたが、ひざを痛め、手術をしてからは仕事をすることも出来なくなりました。そのため、寂しい気持ちを紛らわすつと、ノートにいろいろな書き留めをしてきました。そんなとき友人から「そんなことを書くより俳句でも詠んでみ

たらどう？」と言われたのがきっかけで、俳句を始めるようになった。

なかなか出歩かことが出来ないので、娘さんに連れて行ってもらった旅行の思い出やテレビなどで見たり聞いたりした心に残る文句をメモするなど、いろいろなおことを利用して俳句を詠んでいるそうです。

また、武山さんは、俳句の大会などに出品していて、何度も入選し、特選にも選ばれています。

その中の一つの句を紹介しましょう。「秋の声 いま生涯の どのあたり」この句は、現代俳句全国大会で特選に選ばれた作品です。

いろいろな趣味を持つことも大事ですが、ひとつの趣味を持ち、長く続けていくこと、続けられることが、長寿の秘けつです。

